

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)四谷学院千葉校跡地計画	階数	地上13F
建設地	千葉県千葉市中央区2丁目3番1、3	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	600人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	飲食店、集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2021年6月1日
敷地面積	431㎡	作成者	北岡正也
建築面積	372㎡	確認日	2021年6月1日
延床面積	3,941㎡	確認者	北岡正也

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.3

LR のスコア = 2.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.7

3 設計上の配慮事項		
総合	周辺建物と、高さ、色彩等の調和を図り、景観に配慮した。1~4階の低層部は店舗を設け、ファサードはガラス張りとする事で、交差点、街の賑わいの創出を目指した。	その他 0
Q1 室内環境	専有部分について、高い昼光率を確保し、F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用するなど、室内環境の向上に努めている。	Q3 室外環境(敷地内) 特に配慮を行っていない。
LR1 エネルギー	住宅部分BEI=0.92、非住宅部分BEI=1.00としている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率94%とし、その他の項目についても標準的な配慮を行っている。
Q2 サービス性能	住宅、非住宅ともに階高にゆとりを持たせ、高い天井高を確保している。また、機械配管支持方法を耐震クラスAとし、建物のサービス性能の向上に努めている。	
LR2 資源・マテリアル	特に配慮を行っていない。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される